

聖霊を与える約束

ヨハネによる福音 14:23-29

(そのとき、イエスは弟子たちに言われた。)「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む。わたしを愛さない者は、わたしの言葉を守らない。あなたがたが聞いている言葉はわたしのものではなく、わたしをお遣わしになった父のものである。わたしは、あなたがたといたときに、これらのことを話した。しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。『わたしは去って行くが、また、あなたがたのところへ戻って来る』と言ったのをあなたがたは聞いた。わたしを愛しているなら、わたしが父のもとに行くのを喜んでくれるはずだ。父はわたしよりも偉大な方だからである。事が起こったときに、あなたがたが信じるようにと、今、その事の起こる前に話しておく。

説教

きょうの福音箇所はイエスの遺言、告別説教の場面です。

3人の弟子たちの質問にイエスが答えるというかたちで福音が伝えられています。

主よ、わたしたちには御自分を現そうとなさるのに、世にはそうなさらないのは、なぜでしょうか。 ヨハネ 14:22

この三つ目の質問のイエスの答えの箇所がきょうの福音です。一見、イエスさまは質問に答えていないように見えますが、そうではありません。

ただ、わたし(イエス)を信じて「愛し」その「ことばを守る」者のみに見

える現実をイエスさまは説明しています。イエスさまは不在になりますが、いる、いない（在、不在）は現実のありようの違いであって、復活のイエスは見える人には見えるのだということをイエスさまは遺言しています。じっさいのところイエスさまが死んだ後に「教会」は見えない人ではなく、いなくても見える人たちによって、めざましい発展をとげたことを歴史は証明しています。

では、ひるがえって現在の状況はどうでしょう。イエスは「御自身を現わそう」とされているのでしょうか？それとも「世にはそうならない=ご自身をあらわさない」ようになっているのでしょうか。

いまの世界に神はいるのか、イエスさまは今日も見守っていてくださるか、聖霊はわたしたちに働きかけているか。

ハイ、そうです。三位一体の神はつねにわたしたちを導いていてくださいます、という答えは私にはむなしく響きます。教会に力があるとすれば、残念ですがそれは「この世」のパワーです。

わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。 ヨハネ 14:27

イエスさまがこうはっきり言いきっています。父、子、聖霊の力とは「世が与える」通俗的なパワーではありません。イエスさまが「わたしの平和」という平和は通俗的な平和ではなく、「霊」的な平和です。

ボタンを掛け違えてしまっただけは間違いです。「イスカリオテでない方のユダ」がイエスに質問した「主よ、世にはそうならないのは、なぜでしょうか。」という問いはとても重要な問いです。教会は世にあるものですが、世にあってはならないものでもあります。わたしたちはこの世にあって、この世にはないものをイエスさまから教えていただいたことを思い起こす必要があります。ぎゃくの言い方をすれば、この世になくても、この世にあるものをイエスさまの十字架によって、わたしたち一人ひとりが受け取っていることを確信しましょう。
